

環境事業団 P C B 処理技術懇談会
環境安全グループ会議議事要旨

- 1 開催日時 平成13年8月22日(水) 10:00～12:00
- 2 開催場所 環境事業団 第1会議室
- 3 出席者：森田座長、酒井委員、田辺委員、永田委員、益永委員、宮田委員、若松委員
- 4 議題：(1) P C B 処理に係る環境安全施策について
(2) 整理すべき課題について
- 5 概要
各議題について、事務局より資料に基づき説明、主な意見は次のとおり。
 - (1) P C B 処理に係る環境安全施策について
 - 作業者の定期的な健康診断など労働安全衛生に関する施策をしっかりと検討すべき。
 - 何かあった時の対応を具体的に検討し、住民の不安に対する回答を準備しておくことが重要。原子力災害や火山災害等の分野では、緊急時の迅速な連絡、避難などの非常時対応のノウハウが蓄積されており、利用可能な内容をレビューすることが有用。
 - P C B の保管、紛失に伴う危険性が必ずしも十分認識されていないことを懸念。例えば保管中に火災が発生すると、多量のダイオキシン類が発生するおそれがあり、P C B 処理が緊急に必要な背景として、このような側面の理解が重要。
 - 住民説明会の経験から、P C B の危険性に対する住民意識には、人によって相当の隔たりがあり、このギャップをうまく埋めていくようなコミュニケーションが必要。
 - 生活環境影響調査について、測定地点等の情報をもう少し詳しく整理しておくこと。また、煙突の有効高さを安全側に立って0mとする考え方はいいが、一定の高さとした場合についても検証しているかどうか確認が必要。
 - 実際の処理では不純物も含まれてくるので、影響予測においては、そのような要因による変動も考慮が必要。
 - (2) 整理すべき課題について
 - 住民の理解に向けて課題を集約していく上で、関係者の責任の所在、役割分担の整理が必要。
 - 実際の処理では、液処理と容器等処理という二つの異なる仕組みを組み合わせることになり、その連携が重要であるため、複数社の技術を組み合わせた処理も想定した検討が必要。
 - 課題整理の項目はこれでいいと考えるが、事業によって検討の境界条件や、地域特性が大きく異なることがあり、検討の様相が変わってくることに留意が必要。また、リスクコミュニケーションには、保管を続けた場合の火災時のリスクなど、ゼロオプション(何も対策をとらないこと)による評価も準備しておくことが必要。

- リスク低減対策については、フェイルセーフ、セーフティネットという考え方の下での緊急時対策、事故時対策について整理されているが、それ以前に、利用可能な最善技術を適用し、安全対策を講じるという当然の対策に優先順位を置いたメリハリのあ
る整理とすること。
- 技術を選定する際には、できるだけリスクの低い技術を選び、プラントが暴走するよ
うなリスクを最小化するという観点が重要であり、これをどう定量化するかが課題。
- 現実を考えると、地域の立場で見えていかないと話が進まないなので、第一段階の整理を
速やかにした上で、地域ごとの具体的な議論を進めていくべき。

6 今後の予定

次回は、次の日程で行うことを確認。

・ 9 / 7 (金) 13:30 ~ 17:00 場所は未定

7 問い合わせ先

環境事業団 環境保全・廃棄物事業部 処理技術室

03-5251-1038